

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3471504617		
法人名	エルダーサポート協会		
事業所名	グループホーム愛の郷引野		
所在地	広島県福山市引野町北5丁目22-5		
自己評価作成日	平成25年9月24日	評価結果市町村受理日	平成26年1月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.hiroshima-fukushi.net/kohyo/index.html
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あしすと		
所在地	福山市三吉町南1丁目11-31-201		
訪問調査日	平成25年11月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

本部理念を基本として、事業所独自の理念を掲げると共に「もし、自分の両親が愛の郷引野で暮らしていたら?」と利用者を身近な人に置き換えて支援していこうと職員に呼びかけ職員全員で取り組むようにしています。日常の何気ない関わりも大切にしています。利用者・ご家族の思いをご要望を叶える為の介助技術の向上・誰でもきちんとした報告ができるなど細部にわたり話し合いや勉強会を設けています。まだまだ、改善すべき課題は沢山ありますが職員と共に頑張っています。利用者のご家族との架け橋となれるよう毎月利用者のご様子を担当職員がお手紙を書いています。ご家族様と施設との距離も近づいているように感じています。利用者の重度化・看取りといった精神面で辛いことが多い状況ですが、グループホーム愛の郷引野の職員は皆、協力的で向上心がある大変優れた職員です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

市の東部に位置し、消防署や支所、大型スーパーも近くにあり利便性が良い。学区の中学生や様々なボランティアの訪問があり楽しみごとの支援と交流が図られている。ケア面に於いても家族や利用者への細やかな配慮をされ、毎月日々の様子をお手紙でお知らせし、家族の方から生活の様子が良く分かり毎月届くのが楽しみであるとの声があり、信頼関係が築かれている。また、体調が悪い時も親身になって対応してもらい元気を取り戻すことができたという喜びの声もあった。常に利用者の立場で支援され、管理者、職員が温かく、心あるケアの統一が図られていると共に研修も定期的に行い段階に応じたスキルアップ繋げている。地域との関わりも協力が得られる場面も多くなり、その地に根付いた事業所となってきている。今後に大いに期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	特定非営利活動法人 あしすと		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝、申し送りにて理念を職員と共に唱和する事で実践に繋がるよう努力を行なっている。地域活動への参加も管理者のみならず職員も積極的に取り組んでいる。	企業理念を唱和すると共に独自の目標も作成され日々心にとめて実践に繋げている。また、ミーティングでも話し合い統一したケアに努めている。職員のトイレのドアにも掲示し周知されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会行事、(町内会総会、草取り、夏祭、敬老会、ふれあい芸能等)に参加させて頂いたり、ホームで行う避難訓練、どんぐり祭りへも参加して頂くなど交流を図っている。また、春先にはご近所の方から、梅の実を頂くなどお気遣い頂いている。	町内行事は下よりボランティア(三味線、生け花、)の受け入れや音楽療法なども実施し外部の風を入れ色んな方々との交流に努めている。事業所の夏祭りにも沢山の参加があり、地域との関わりも年々深まり協力が得れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域活動へ参加させて頂き地域住民の方へ認知症の方への理解をして頂く取組みを行っている。また、利用者の面会等にて施設を訪れて下さる方へも理解をして頂く努力に取り組んでいます。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議に於いては、普段からの施設の活動、サービス内容などを報告させて頂き出席者からの意見を取り入れながらサービスの向上に向けた努力をしている。	家族、町内会長、副会長、行政、包括等の参加の下、現状や研修、利用者の介護度等について報告し、毎回議題を決め意見交換の場とし、各分野の方々の多くの意見やアドバイス等を得、有意義な会議となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	担当者会議には2ヶ月に1回の運営推進会議へ参加して頂き実情報告や施設での取り組みに関して積極的にお伝えし、協力して頂いている。	運営推進会議に毎回同じ方が参加されるので現状は把握してもらえている。又、顔馴染なので疑問点や困難事例がある場合は気軽に相談でき情報提供やアドバイスをしてもらっている。小地域ネットワーク会議にも参加し包括支援との連携も図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロへの手引きを参照にして、朝の申し送り、ミーティング、また事例検討を含めた勉強会を開くなどして取り組んでいます。玄関施錠はしない取り組みは続けて行っています。	本社研修にも参加すると共に事業所内でも事例を基に研修を実施し拘束のないケアの統一を図り、不穏な方場合は安全策を日々事細かく話し合い見守りの徹底強化に努めている。できるだけ行動を制止しないケアを心がけている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	拘束・虐待委員会を設けて虐待につながる行為のないよう勉強会を行っている。特に今期は本社も言葉の虐待につきて力を入れて取り組んでいるため施設でも朝の申し送りの際、繰り返し注意喚起を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	難しい事例に関して、地域包括支援センターや市町村への相談を行うなど対応しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には重要事項説明書に基づき説明を行っています。入居後でもご家族様の意向や疑問など随時ご説明・ご相談をお聞きしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関にはご意見箱を設置いたし、気軽に要望が言えるよう努めています。法人でも各施設に対するご家族様の意見を無記名にてアンケートの実施をいって運営に反映させるよう努力をしています。	法人全体でアンケートを取り、事業所ごとの集計を職員に周知すると共に家族にも報告し改善に繋げている。また、訪問時や家族会等でも聞き取り個々に対応し運営にも反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月、1回のミーティングで職員に対し運営報告を行い職員の意見も起案伺い・ホーム長会議にて反映できるよう取り組んでいます。	ミーティングや日々の業務の中で気が付く有れば聞き取るようにしている。信頼関係ができていますので言いやすい雰囲気も多く意見が聞かれる。設備面等は本社に伝える。また、ホーム長との個人面談の機会も設け意見等は個々に対応している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回、職員自身の自己評価を行い個々の課題や反省点を決めて取り組み各自が向上心が持てるようにしています。また、個人のスキルが上がるよう助言、協力も出来る限り行っています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人による入社時新人研修、2ヶ月に一度のスキルアップ研・資格別ミーティング・内部研修で介護技術の向上や悩みを話し合って日々の利用者支援に活かせるよう取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流まではいかないが、出来る限り同業者交流する機会を増やしていくよう努めます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	出来る限り、ご本人様の見学して頂き、事前にご本人から情報収集を行っています。暮らしの情報という書式を活用してご本人の意向をお聞きして信頼関係を作るよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	電話でのご相談や見学時に情報収集を行いご家族の困っている事、不安の事をお聞きしてご希望に添える関係づくりに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必ず、見学に来ていただき、ご家族・ご本人のニーズを会話の中から見つけ支援内容を見極めるよう努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員には、共に暮らしていると意識していただき掃除や洗濯、余暇活動を一緒に行う中で関係を築けるよう努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様との関係が途絶えないように、また負担とならないように、絶えず相談を行いながら家族と二人三脚で利用者を支えるよう努力しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人・ご近所の方とお付き合いを大切に施設に面会に来られた時はゆったりとした時間を過ごせるよう配慮している。また、馴染みの場所はドライブにお連れするなど支援している。	自宅近くまでドライブしたり、同級生の方が訪問されたり、生け花教室をされた時の生徒さんなどが来られる事もあり、馴染みの方との継続的な交流ができる様取り組まれている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う合わない方の把握を行いながらも、生活の中やレクリエーションと共に行える場面を作り職員が間に入り支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院で契約解除された方には、必ず何かありましたらご連絡下さいと一言お伝えしている。入院先、転居された先へも連絡を取っています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その都度、表情やしぐさの観察を行い、心の声に耳を傾けている。個々の生活を大切に家事や趣味など暮らし方の希望を把握して支援できるよう努力している。	日々寄り添い会話の中から把握したり、表情や行動などから察知し、状況把握ノートに記録し送りの際職員に周知すると共に可能な限り対応し計画にも反映させている。困難な方は家族の意見と生活歴から把握し対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様に事前にお聞きしていますが、生活していく中での気づきをお聞きしながら共有し今後のケアに活かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	どんな時に、どんなことが出来たか、出来なかったのか等、職員間で共有・把握に努めている。心身状態の観察を行い支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族の意向を聞きながら、日常の暮らしの中での課題を常に話し合い、それぞれのアイデアを反映させ取り組んでいる。	モニタリングを定期的に行い、その都度家族の意見や職員からの情報を基に担当者会議で検討し作成され、家族の承諾を得ると共に職員にも周知している。見直しも個々に合わせ定期的に行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	今期から介護記録を時系列部分と、気付き・一日の様子・日々の観察記録を職員がより把握できるよう作成しより細やかなしえんが行えるよう変更しています。また、職員間での情報交換が活発に行えるよう取り組んでいます。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の状況に合わせ、かかりつけ医への受診や眼科受診の付き添い、住み慣れた地域へのドライブなど利用者・家族の意向に出来るだけ沿えるよう柔軟な対応に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会でもようされる、選挙、敬老会、文化祭、いきいきサロンコンサートなど地域の方へご協力頂き参加させて頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族の了承のもとに、2週間に一度提携医の往診を受けている。必要に応じて歯科往診も受けられるよう支援している。その他医療機関に対する受診にも家族と相談の上、支援させて頂いています。	提携医の往診もあり、かかりつけ医を継続の場合は受診は基本家族対応とし、日々の状況の記録を基に受診時主治医に伝える仕組みを取り結果もその都度報告し合い共有している。訪問看護の利用や訪問歯科もあり、他科も柔軟に支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の体調の変化や気づきを看護職に伝え個々の利用者の健康面の管理を行っています。必要に応じて看護師より医師へ報告し指示を職員に伝えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	普段から地域連携室と情報交換を行っている。入院された場合でも連絡を密にとり退院に向けての情報交換をさせて頂いている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化・看取りの説明を行う。医師・訪問看護との連携の中で早期にご家族、職員との話し合いを持ち意向に添えるよう対応している。終末期にはご家族様と話し合いを行い、付き添いが可能な限り支援している。	利用開始時説明しているが、状況によりその都度家族と話し合いを重ね、家族、医師、訪問看護、職員等で連携を取り、方針を共有しながらチームで支援に取り組まれている。体験もされ、其の体験の中での反省点を次に繋げるよう取り組まれている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルに添って勉強会やミーティング等で勉強会を行っている。利用者の既往歴を職員全員把握する事と緊急対応に関して最低限の知識は身に付けるよう今後も指導を行って参ります。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消火・避難訓練は年2回行っています。運営推進会議など地域の方へ参加して頂けるようお願いはしていますが、参加には至っていません。今後も地域への呼びかけを行って参ります。緊急時のマニュアル・連絡網は作成しています。	年2回実施し消防署指導の下、連絡方法や避難等の訓練、避難場所の確保も徹底している。また、夜間を想定した訓練もしている。防災カーテンの設置や点検も定期的に行っている。連絡網の改正も行い運営推進会議で協力の依頼もしている。	運営推進会議の中で議題とし事業所の災害時対策に関する話し合いを行い理解を求める働きかけと協力の依頼を引き続き行い、協力体制強化に繋げる取り組みに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりの尊厳を一番に考えるよう職員にはミーティング・朝の申し送りで随時、人格否定やプライバシー保護に対しての言葉かけの指導を行っています	個々の人格を尊重し、馴れ合いになっても節度ある対応に心掛ける様日々のケアの中で周知されている。本社研修にも参加し、ミーティングで勉強会も行い、一人ひとりが認識しながら対応する様取り組まれている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	話しやすい環境作りを目指しています。日常生活の中で行動や表情を読み取り個別の希望を少しでも叶えていけるよう職員と話し合って介助できるよう努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の利用者の体調に合わせ、食事時間を調整するなど支援している。また、職員には業務優先にならず利用者本位で支援して頂くよう指導している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毛染め・パーマを希望されておられる利用者に対しては2か月に1度、訪問美容室を利用して頂いている。お化粧品に関してもご自分で出来ない方には職員が支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は職員と共に会話を楽しみながら摂って頂いている。ご希望のお食事をお聞きしたり、味付けなどにも配慮して提供させて頂いている。個人の能力に合わせて準備や片づけなど手伝って頂いています。	利用者と職員が各テーブルで一緒に会話を楽しみながらの食事時間となっている。利用者の好みを聞き対応される事もある。食が進まない方には別メニューで食べやすく好みの物を提供する等細やかな配慮をされている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事メニューを工夫し食事量・水分量の把握を行うと共に食事量が少ない方へは代用品とう個別提供を行っています。また、医師と相談して高カロリー食も提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の歯磨きの声掛けを行い利用者一人一人の能力に応じて支援している。必要に応じて歯科往診をして頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	その方の排尿・排泄パターンを観察・記録しトイレ誘導を行っている。また、ホールにて過ごされている時に立ち上がり見られると声掛けを行うなど支援している。	利用者の排泄パターンを把握しトイレ誘導を行っている。排泄の生活機能を高めるために五分でも座っていただくように取組んでいる。リハビリパンツから布パンツへと変わられた例もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の予防のため、食事には野菜を豊富に取り入れるよう料理を工夫している。デザートにヨーグルト・バナナの提供も行っている。便秘傾向の方には排泄介助時に腹部マッサージを施行・薬による排便コントロールなど支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日にとらわれず、その日の体調に合わせて入浴して頂いている。また、入浴時リラックスして頂くために入浴剤の検討をしています。	入浴は基本週2回となっているが利用者の希望にそって行っている。毎日着替えを行い清潔を保持している。拒否の方は声掛けを行いタイミングを見ながら支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の生活習慣をご家族様より情報として頂き、また、利用者の体調も配慮して安眠できるよう心掛けています。休息に対しては日中居室で休まれる事を好まない利用者にはホールに設置している畳ベットを使用して頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師によりお薬情報や副作用についての説明を行い、職員全員に周知して頂いている。新たにお薬処方される時は服用後の症状の変化を観察・記録して医師へ報告を行っています。また、ご家族様へもご報告させて頂いている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴を把握して、洗濯干し、トレイ拭き、床拭きなど無理強くない程度に手伝って頂いています。嗜好品については、医師、ご家族様ともご相談をして飲用出来るよう支援している。ピアノを弾かれる利用者には時間を見て弾いて頂いている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	敷地内の散歩を行い外気浴に心掛けています。利用者のご希望の合わせ地域行事の参加や季節の花を見に笠岡干拓へのドライブ・買い物など連れ出し支援を行っています。	遠出のドライブや季節ごとの外出、希望で買い物、図書館などに出かけたり、また、地域の文化祭にも参加し楽しみごとと気分転換等の機会を多く持つように支援されている。敷地内のお庭の花壇が日々の散歩の憩いの場となっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	その方に合った金銭管理を心掛けています。また、ご家族様へ利用者のご希望をお伝えしお金の所持が出来るようご相談させて頂き、必要に応じて出来る限りに対処を行っています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族の協力のもと、電話で話したいと申し出があった際は、ご自分でかけられたり、職員が支援を行いながらご家族・ご友人との繋がりを持って頂いている。手紙を書かれる方へは、投函は職員にて行っています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホール、廊下には季節を感じて頂けるよう掲示物を貼っている。色彩の配慮も行っている。玄関には2/月利用者が生けられた季節のお花を飾らせて頂いている。空調は28度設定にして直接身体に長時間、直接風が当たる利用者にはソファへ移動して頂くなど配慮を行っています。	玄関を入ると利用者が生けられたお花が飾られ、季節感を感じる事ができる。明るいホールにはソファが置かれ思い思いに寛げる場となっている。食事準備の匂いや音で五感刺激となり家庭的な雰囲気であり温度調節にも配慮され快適に過ごせる共有空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各ユニット、ソファをご用意させて頂き利用者同士が憩いの時間を持って頂けるよう配慮している。方ユニットには畳ベットを新しく配置してお昼寝が出来るよう配置している。畳ベットが好評にて増設の検討をしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居のご説明の際より、ご自宅でお使いになっていた馴染の物や大切な思い出の品を持って来て頂けるようお願いしています。入居後でもご本人の思いをくみ取り、出来る限り居心地良く過ごしていただけるよう支援している。	家族の写真や家具、テレビ等、馴染の物が持ち込まれ過ごし易く工夫されている。清掃も行き届き清潔感のある居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室・トイレが分かるよう表札を付けている。居室は利用者の自立度の合わせた家具の配置をしている。車椅子・杖も使いやすい位置に配置し完全を確保している。転倒リスクの高い方へはご家族様のご相談してセンサーの設置を行っている。		